

2学期の漢字

たしかめ

18

89	88	87	86	85
退	源	値	覧	樹
天皇の位を退くことが「退位」。	水の流れ出る源を「源流」という。	一億円の値がつく価値のある作品。	展覧会の絵を見に行く。	この果樹園の梨は特別うまい。

たしかめ

19

94	93	92	91	90
策	貴	推	優	厳
環境問題の解決策を考える。	貴重品は金庫にしまう。	計画を推し進める推進役になる。	優しくて、技能も優れた優秀な人。	厳重に厳しく見張る警備員。

たしかめ

20

99	98	97	96	95
寸	尺	熟	棒	縮
寸法を測ったら同じ長さだった。	巻き尺で五十メートルを測る。	柿の実が熟れて真っ赤に熟した。	鉄棒の逆上がりができた。	元の形を縮めて描いた図が「縮図」。

たしかめ

21

104	103	102	101	100
若	傷	批	痛	揮
夢と希望に満ちた若者達。	傷口が浅く、軽傷で済んだ。	温かい批評の言葉をもらった。	足を痛め、動くと激痛が走る。	先生の指揮に合わせて合唱する。

たしかめ

18

89	88	87	86	85
てん ^{のう} 皇のく ^{のう} らいをしりぞくことが「たいい」。	みずのながれでるみなもとを「げんりゅう」という。	いちおくえんのねがつくかちのあるさくひん。	てんらんかいのえをみにいく。	このかじゅえんのなしはとくべつうまい。

たしかめ

19

94	93	92	91	90
環 ^{かん} きようもんだいのかいけつさくをかんがえる。	きちようひんはきんこにしまう。	けいかくをおしすすめるすいしんやくになる。	やさしくて、ぎのうもすぐれたゆう ^{うしやう} 秀なひと。	げんじゆうにきびしくみはるけいびいん。

たしかめ

20

99	98	97	96	95
すんぽうをはかったらおなじながさだった。	巻 ^ま きじやくでごじゅうメートルをはかる。	柿 ^{かき} のみがうれてまっかにじゆくした。	てつぼうのさかあがりができた。	もとのかたちをちぢめて描 ^か いたずが「しゆくず」。

たしかめ

21

104	103	102	101	100
ゆめときぼうにみちたわかものたち。	きずぐちがあさく、けいしようで済 ^す んだ。	あたたかいひひょうのことばをもらった。	あしをいため、うごくとげきつうがはしる。	せんせいのしきにあわせてがっしょうする。

たしかめ

22

109	108	107	106	105
頂	縦	翌	遺	閉
山の頂を「山頂」という。	縦と横、縦横に走る都会の道路。	運動会の翌日は体が重い。	世界遺産に登録された富士山。	閉園の時刻が来たので門を閉じる。

たしかめ

23

114	113	112	111	110
己	蚕	敵	誠	忠
それは自己満足に過ぎない。	蚕から生糸を取る養蚕業。	敵と味方に分かれて戦う。	誠の心を込め、誠意を持って取り組む。	親の言いつけを忠実に守る。

たしかめ

24

119	118	117	116	115
系	裏	泉	仁	除
成り立ちを系統立てて説明。	表と裏、裏側を「裏面」という。	水の湧き出る泉。その水が熱いと温泉。	仁義を重んじた戦国武将。	除雪・除草、除は「取り除く」という意味。

たしかめ

25

124	123	122	121	120
班	善	株	欲	盟
登校班の班長に選ばれた。	善悪の判断はしっかりつけよう。	木の切り株に小鳥が止まる。	欲張って、何でも欲しがる妹。	日本は国際連合の加盟国だ。

たしかめ

22

109	108	107	106	105
やまの	たてと	うんどう	せかい	へいえん
いただき	よこ、	かいの	いさん	の
を	じゅう	よく	にと	じこく
「さん	おう	じつ	とう	が
ちよう	には	は	ろく	きた
」とい	しる	からだ	され	たの
う。	とか	が	たふ	で
	いの	おも	じさん	もん
				をと
				じる。

たしかめ

23

114	113	112	111	110
それは	かいこ	てきと	まこと	おやの
じこ	から	みか	の	いい
まん	きい	たに	ここ	つけ
ぞく	とを	わか	ろを	を
に	とる	れて	込め	ちゅう
すぎ	よう	たた	せい	うじ
ない。	さん	かう。	いを	つに
	ぎ		も	ま
	よう		も	も
	ぎ		つ	も
	よう		つ	も

たしかめ

24

119	118	117	116	115
なり	おも	みず	じん	じよ
たち	て	の	ぎを	せつ
けい	と	湧	おも	・じよ
とう	う	き	んじ	そう
だ	ら	で	た	う、
て	が	る	せん	じよ
て	わ	い	んこ	は
せ	を	ず	く	
つ	「り	み	ぶ	
め	めん	ず	将	
い。	」とい	が		
	う。			

たしかめ

25

124	123	122	121	120
とう	ぜん	きの	よく	にほ
こう	あく	の	ば	んは
は	の	きり	って	は
ん	は	かぶ	、	こ
の	んだ	に	なん	く
	んは	こ	でも	さい
	し	こと	ほ	れ
	っ	りが	し	ん
	け	と	が	ご
	り	ま	る	う
	つ			の
	け			か
	い			め
	よう			い
				こ
				く
				だ

129	128	127	126	125
宅	至	否	割	危
帰宅した時、宅配便が届いた。	至つて難しいことを「至難の技」という。	学級会で議案が否決された。	仕事の役割分担を決める。	危ないぞ。そこは危険だ、近づくな。

134	133	132	131	130
創	乳	卵	紅	糖
学校が創られた日が創立記念日。	乳を搾るために育てた乳牛。	卵の中身は卵黄と卵白。	紅色にもみじの葉っぱが紅葉する。	料理の仕上げに砂糖を加える。

139	138	137	136	135
筋	看	困	誕	奏
背筋を伸ばし、筋骨たくましい若者。	いろんな看板が並ぶ商店街。	貧困で困っている人々を助ける。	今日は私の誕生日。	音楽会で器楽合奏を発表。

144	143	142	141	140
郷	宝	巻	骨	盛
滋賀県の郷土料理の鮎寿司。	金銀の財宝を満載した宝船。	巻物は、一卷、二巻と数える。	体を支える骨組みが「骨格」。	盛大にパーティー開かれ盛り上がる。

たしかめ

26

あぶないぞ。そこは きけんだ、ちかづくな。

しごとの やくわりぶん担^{たん}を きめる。

がつきゅうかいで ぎあんが ひけつされた。

いたって おずかしいことを

「しなんの わざ」という。

きたくした とき、たくはいびんが とどいた。

たしかめ

27

りょうりの しあげに さとうを くわえる。

べにいろに もみじの はっぱが こうようする。

たまごの なかみは らんおうと らんぱく。

ちちを 搾^{しぼ}るために そだてた にゅうぎゅう。

がつこうが つくられた ひが そうりつきねんび。

たしかめ

28

おんがくかいで きがくがつそうを はっぴよう。

きようは わたしの たんじようび。

ひんこんで こまっている ひとびとを たすける。

いろんな かんばんが ならぶ しょうてんがい。

せすじを 伸ばし、きん骨^{こつ} たくましい わかも。

たしかめ

29

せいだいに パーティー ひらかれ もりあがる。

からだを ささえる ほねぐみが 「こっかく」。

まきものは、いっかん、に かんとかぞえる。

きんぎんの ざいほうを まん載^{まい}した たからぶね。

しがけんの きようどりょうりの 鮒^{ふな}寿し。

149	148	147	146	145
拝	絹	聖	秘	敬
礼拝堂で、心静かに神を拝む。	絹系のような筋雲を「絹雲」という。	神社の境内は神聖な場所だ。	秘かに伝えられた神秘の伝説。	目上の人を敬い、敬語で話す。

154	153	152	151	150
郵	衆	干	亡	鋼
書留速達の郵便が届く。	民衆の力で平和を守る。	晴れた日に洗濯物を干す。	死亡事故の原因を究明する。	鋼板は、炭素を混ぜて作った鋼の板。

159	158	157	156	155
俵	穀	預	孝	賃
米俵を一俵担げたら一人前。	穀物を収納庫に収める。	「預金」は銀行にお金を預けること。	親孝行、したい時には親は無し。	仕事の賃金上がる。

163	162	161	160
詞	暖	忘	訳
歌の歌詞を紙に書いて覚える。	暖冬で暖かく雪も少ない今年の冬	忘却とは、忘れ去ることだ。	通訳をしてもらい、訳が分かった。

たしかめ

30

149	148	147	146	145
れいはいどうで、こころしずかにかみをおがむ。	きぬいのようなすじぐもを「けんうん」という。	じんじやのけいだいはしんせいなばしよだ。	ひそかにつたえられたしんぴのでんせつ。	めうえのひとをうやまい、けいごではなす。

たしかめ

31

15	153	152	151	150
かきとめそくたつのゆうびんがとどく。	みんしゅうのちからでへいわをまもる。	はれたひにせん濯 <small>たく</small> ものをほす。	しほうじこのげんいんをきゆうめいする。	こうはんは、たんそをまぜてつくったはがねのいた。

たしかめ

32

159	158	157	156	155
こめだわらをいっぴよう担 <small>かつ</small> げたらいちにんまえ。	こくもつをしゅうのうこにおさめる。	「よきん」はぎんこうにおかねをあずけること。	おやこうこう、したいときにはおやはなし。	しごとのちんぎんがあがる。

たしかめ

33

163	162	161	160
うたのかしをかみにかいておぼえる。	だんとうであたたかくゆきもすくないことしのふゆ。	ぼう却 <small>きやく</small> とは、わすれさることだ。	つうやくをしてもらい、わけがわかった。